史料群番号　2

史料群名	ほそごしただつぐ 細越忠次家文書（旧　本浜史料）	旧所蔵者	細越忠次
採訪時住所	岩手県宮古市磯鶏		
現在の住所	岩手県宮古市磯鶏		
採訪年月	昭和25（1950）年8月		
史料の年代	文政7（1824）年～明治7（1874）年	史料の総点数	3点
年代の内訳	近世　2点/近代　1点	筆写稿本	なし
既刊行目録	「昭和五十一年三月　水産庁水産資料館所蔵古文書目録（北海道・岩手編）－　水産庁水産資料館・日本常民文化研究所」		

収蔵にいたる経緯

水産資料館の目録（上記「既刊行目録」参照）には「岩手県宮古市本浜町　本浜史料」として３点の史料名が掲載されている。しかし宮古市に本浜町はなく、過去に存在した事実も認められない。一方神奈川大学日本常民文化研究所には「細越忠次家文書」の名で採訪書類が残されており、史料の採訪地・点数・内容はすべて水産資料館の目録にある「本浜史料」と一致する。恐らく両者は同一の史料群を指すと考えられる。ここでは、採訪書類にある「細越忠次家文書」の名称を用いる。

史料群の概要

３点すべて横帳で、鰯地引網による漁獲高や収支計算・員数立に関する記載が見られる。

閉伊（へい）郡磯鶏（そけい）村は現在は宮古市に属し、閉伊川南側、宮古湾沿いに位置する。江戸時代は盛岡藩領で宮古通に属した。寛永年間に磯鶏村の大伊儀右衛門が、船引網の一種である小舌網を発明し鰯漁を行った。大伊家はもと房州銚子の住人だが、磯鶏に移り住んで、同地の網漁を興したとされる。小林家も当初は大伊家から網を仕入れていたものと考えられる。宮古湾沿岸の各地では地引網漁も行われ、鰯のほかに鮭が水揚げされていた。鰯は大半が干鰯にされ、内陸の農村や関東に送られ、肥料として用いられていた。（宮古市史）細越家も鰯地曳網の経営に関わる漁家であったと考えられる。